

指導資料



鹿児島県総合教育センター

幼児教育 第16号

－幼稚園，小学校，特別支援学校対象－

平成25年4月発行

学びの芽生えを育む幼稚園教育

幼稚園教育は、幼児の健やかな成長のために、小学校以降の教育の土台をつくることを目的としている。それは、幼児の遊びを通して育まれていく。すなわち、遊びの中に学びがある。

そこで本稿では、幼稚園教育についての重要性や意義を踏まえ、小学校以降の教育につながる学びの芽生えを育むために、教師は保育を行う中でどのようなことを大切にしながら幼児と関わっていけばよいか、そのポイントや具体的な事例を交えながら述べる。

1 「生きる力の基礎」を培う幼稚園教育

(1) 幼稚園教育の重要性

平成18年に改正された教育基本法の中に「幼児期の教育」（第11条）が新設された。ここでは、保育所も含めて幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものと明示された。

平成19年の学校教育法一部改正では、学校の範囲を規定する「第一章 総則」の第1条において、戦後60数年間最後尾であった幼稚園の規定順が学校種の最初にその位置を移している。幼稚園に関する規定順の変更は、昭和22年に学校教育

法が制定されて以来のことであった。このことは、幼児期における幼稚園教育が極めて重要であることや、体系的な教育が組織的に行われる学校教育は幼稚園から始まることを端的に示している。

また、同法「第三章 幼稚園」の第22条では、幼稚園の目的について「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの」と規定された。

以上のことから、幼児期の教育においてこれまでも中心的な役割を果たしてきた幼稚園教育だが、今後は、一層長期的な視野をもち、小学校以降の教育の土台、つまり「生きる力の基礎」を培う重要な役割を担っていかなければならない。

(2) 重要な学習である幼稚園での遊び

幼稚園教育要領総則の第1の中には、「幼児の自発的な遊びは、発達の基礎を培う重要な学習」と示されている。

教師は、幼児の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しながら、幼児の主体的な活動（遊び）を促す。その中で、幼児にとって「生きる力の基礎」となる学びが芽生える。

2 学びの芽生え

(1) 「学びの芽生え」とは

幼稚園教育要領改訂後の、平成22年11月に「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」（以下、「報告」という。）という報告がまとめられた。ここで「学びの芽生え」とは、「学ぶということ意識しているわけではなく、楽しいことや好きなことに集中することを通じて、様々なことを学んでいくこと。」としており、幼稚園教育における遊びの中の学びがこれに当たるとしている。

(2) 学びの芽生えから自覚的な学びへのつながり

一人一人の発達や学びは、幼稚園と小学校ではっきりと分かれるものではない。

「報告」では、幼小の教育目標を「学びの基礎力の育成」とし、双方の教育を一つのつながりとして捉える考え方が必要であると示されている。（図1）

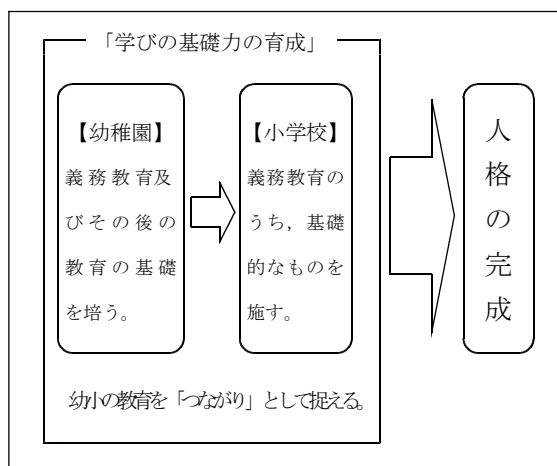


図1 幼稚園教育と小学校教育の捉え方

また、幼稚園から小学校にかけては、学びの芽生えの時期から自覚的な学び（与えられた課題を自分の課題として受け

止め意欲的に学習を進めることであり、小学校で行われる各教科等の学習がこれに当たる。）の時期への移行をいかに円滑に図るかが重要とも示されている。

以上のことから、幼稚園では、楽しみながら課題を見いだし解決する取組（遊び）を通じて、学びの芽生えから自覚的に学ぶ意識へとつながっていくよう、教育活動を展開することが求められる。そのような教育活動の中で育まれた学びは、生涯にわたる学びの基礎となる。

ただ、幼稚園が小学校に合わせるということではなく、幼児の発達段階を踏まえて、幼稚園は幼稚園の教育を充実させることが大切である。

(3) 学びの芽生えと多様な体験との関連

幼稚園教育要領第3章第1の1、一般的な留意事項（4）には、体験の多様性と関連性について述べてあるが、このことは学びの芽生えを育むことを指す。

幼児は、具体的な活動（遊び）の中で、自分なりに考えたり、おもしろさや楽しさを感じたりする。教師は、幼児の行動や表情、言葉などから、このような幼児の心の動きを捉える。そして、幼児の心を動かされた体験から芽生えた学びに基づき、環境を構成し、次の活動へと関連させる。幼児は多様な体験を積み重ねていくことで、遊びはさらに深まり、発展していく。つまり、このことが幼稚園において幼児の学びの芽生えを育むということになる。

例えば、初めは教師の真似をして葉っぱをすりつぶしている幼児が、次第に、

木の実で試したり、絵の具で作った色水を混ぜてみたりと遊びを工夫していく。この間に、教師は幼児が興味をもつような材料の準備や賞賛、共感といった言葉掛けをする。そのことで幼児は、色の変化におもしろさを感じ、「先生、こんな色を作りたい。」、「○組さんにも見せたいね。」というように、目的や計画をもって遊ぶようになる。

3 学びの芽生えを育む

(1) 学びの芽生えを育むための援助の工夫

教師は、幼児の遊びの場面に応じて、学びの芽生えを育むことを意識しながら、幼児の遊びを援助することが大切である。

「報告」では、「学びの基礎力の育成において重要であるのは、幼児が人やものに興味をもち、かかわる中で様々なことに気付くとともに、それを深め、広げていく過程の中で、自己発揮と自己抑制を調整する力を育むこと」と示されている。このことから、以下の三点が学びの芽生えを育むポイントと言える。

ア 興味の広がりを大切にする。

幼児が遊びの中で興味を抱くことに共感し、そこからいろいろなことに興味を広げていけるよう促したり見守ったりする。

イ 気付きを大切にする。

幼児なりに気付き、考えようとする気持ちが育つように、幼児が考えを生み出したことを賞賛したり、他の幼児の気付きに触れる機会を設定したりする。

ウ 自己調整力を培うようにする。

幼児は、試行錯誤しながら遊びを工夫する。そこで、幼児同士が互いに思いを伝え合ったり折り合いをつけたりする体験をしながら、自分の気持ちを調整できるよう、行動を見守りつつ適切な援助を行うようにする。

なお、図2は、学びの芽生えを育むポイントに基づいた学びの基礎力の育成を表にしたものである。

(2) 事例

次の表は、11月下旬に年少児が行った、花紙をポリ袋に入れ、水に溶かして遊ぶ「花紙の色水作り」である。

学びの基礎力の育成			
幼稚園教育で育む学びの芽生え		→ 小学校教育での自覚的な学び	
ポイント	教師の関わり	幼児の姿 (例)	期待される児童の姿 (低学年の例)
ア 興味の広がり	○幼児が抱く興味への共感 ○興味の広がりを大切にした援助 など	・遊びの中で、いろいろなことに興味をもち、面白さを感じている。	・算数科では問題を解くことを面白いと感じたり、生活科では校区探検に関心を示したりする。
イ 気付き	○幼児の考えに対する賞賛 ○幼児が他の気付きや考えに触れる機会の設定 など	・遊びの中で何かを発見し、周囲に伝えることを繰り返して幼児なりの思考を深めている。	・生活科で秋に見つけた木の実や葉の色が、春とは異なっていることに気付いたり、そのことを教師や友達に伝えたりしている。
ウ 自己調整力	○試行錯誤しながら幼児同士が遊びを展開するような援助 など	・集中したり、工夫したり、時には我慢したりしながら遊ぶ。	・教師の話聞くことができたり、席について学習に集中することができたりする。

図2 学びの芽生えを育むためのポイントに基づいた、学びの基礎力の育成

表 年少児事例 「花紙の色水作り」



子どもの姿・会話

- 様々な素材を入れている工作棚の引き出しから、幼児はそれぞれ花紙を取り出し、リボンにしたり、丸めてキャンディーをつくったりしている。
- A児が輪っかに花紙のリボンをたくさんつけた冠をかぶって、笑顔で教師に見せる。
教師 「きれいだね。お姫様みたい。」
A児 「キャンディーどうぞ。」



教師の関わり

- ◎ 花紙や折り紙、画用紙など必要な素材を準備しておく。 **【興味】**
- ◎ A児が自分で考えて作った冠なのできれいにできたことを賞賛する。 **【気付き】**

〈幼児に育まれている学びの芽生え〉

- 【興味】** ・花紙でリボンを作るなど、様々な素材の中から花紙に興味を示す。
- 【気付き】** ・花紙のリボンをつけた冠ができたことを教師に伝える。

- B児が水と花紙を入れたポリ袋を持ってくる。
B児 「結んでください。」
教師 「はい。どうぞ。」
B児 「先生、きれいでしょ。」
教師 「そうだね。きれいだね。」
- これまでの三色と、新しく加わった赤色の中から好きな花紙を選び、色水を作り始める。
C児 「最初は黄色とピンクね。」
B児 「一緒にね。黄色とピンクをね、1枚とった。」
B児 「ほら、黄色になっちゃった。」
C児 「わたしもピンクを入れよう。」
D児 「わたしも。」
A児 「こんな色になっちゃった。」
教師 「すてきな色だね。」
D児 「赤とピンク。あれ、ピンクを入れたのに、ピンクが見えない。」
E児 「何色を入れたの？赤と、ピンク？あっ、赤色になった。ほら、見て。」
教師 「ほんとだ。不思議だね。」



- ◎ 桃色、水色、黄色の花紙を使って色水作りや工作などが盛んだったので、赤色の花紙を追加する。 **【興味】**
- ◎ 選ぶ花紙の色や溶かす量の割合で、思いがけない色ができるのを楽しんだり驚いたりして、何度も作っている姿を見守り、その思いに共感する。 **【気付き】**



【自己調整力】



〈幼児に育まれている学びの芽生え〉

- 【興味】** ・新しい色の花紙にも興味をもち、色水作りを楽しむ。
- 【気付き】** ・色を混ぜることで新しい色ができたり、混ぜた色が消えたりするなど、思いがけない色の不思議さに気付く。
- ・自分の思いを友達や教師と伝え合う。
- 【自己調整力】** ・花紙の組合せや割合を工夫しながら、何度も色水作りに取り組む。

鹿児島大学教育学部附属幼稚園の実践を基に作成

教師の幼児に対する関わりはさりげないが、その根底には、幼児に「生きる力の基礎」を培おうとする教師の深い思いがある。

幼稚園教育で育む学びの芽生えは、幼児が遊ぶ中で少しずつ時間をかけて育まれる。それは生涯の学びにつながる始まりでもある。

ー引用・参考文献ー

- 文部科学省 『幼稚園教育要領』 平成20年
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議 『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）』 平成22年
- ベネッセ次世代育成研究所 『これからの幼児教育』 平成23年
- 無藤 隆 『保育の学校2』 平成23年
- 鹿児島大学教育学部附属幼稚園 『かかわる力を育むⅡ』 平成24年

（教職研修課）